**おおさかQネット「第４次大阪府文化振興計画」に関するアンケート**

**分析結果概要**

■実施期間　 平成31年３月20日（水）から３月22日（金）

■サンプル数　　国勢調査結果（平成27年）に基づく性・年代・居住地（４地域）の割合で

割り付けた18歳以上の大阪府民1,000サンプル



大阪市域　　：大阪市

北部大阪地域：豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町

東部大阪地域：守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四條畷市、交野市

南部大阪地域：堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、富田林市、河内長野市、松原市、和泉市、羽曳野市、高石市、藤井寺市、泉南市、大阪狭山市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町、太子町、河南町、千早赤阪村

■**分析結果の概要**

**１．調査目的**

大阪府では、大阪府文化振興条例に基づき、「大阪府文化振興計画」を策定し、「文化自由都市、大阪」をめざすべき将来像として、その実現に向けて、着実に文化施策の推進に取り組んできた。本アンケートでは、第４次文化振興計画(平成28～平成32年度)の評価・検証を行うため、府民の文化に対する関わり方や認識について調査する。

* **分析結果等の概要**

**２．主な調査（検証）項目と結果**

(１) 大阪の文化的環境が整備されていると思う府民の割合　　⇒２５．１％

* 性・年齢層別による、統計的な有意差はなかった。

(２) 府内外から人々が集まり、芸術活動が活発になっていると思う府民の割合　　⇒２３．３％

* 性による、統計的な有意差はなかった。
* 若年層は、中間層・高齢層に比べて大阪に府内外から人々が集まり、芸術文化活動が活発になってきていると思う割合が高かった。

(３) 大阪が創造性を発揮し、チャレンジすることができる魅力的な都市(文化自由都市)であると思う府民の割合　　⇒２４．８％

* 性別による、統計的な有意差はなかった。
* 若年層は、高齢層に比べて大阪が創造性を発揮し、チャレンジすることができる魅力的な都市（文化自由都市）になっていると思う割合が高かった。

（注）

１．「おおさかＱネット」の回答者は、民間調査会社のインターネットユーザーであり、回答者の構成は無作為抽出サンプルのように「府民全体の縮図」ではない。そのため、アンケート調査の「単純集計（参考）」は、無作為抽出による世論調査のように「調査時点での府民全体の状況」を示すものではなく、あくまで本アンケートの回答者の回答状況にとどまる。

２．割合を百分率で表示する場合は、小数点第２位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。

３．図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。

４．図表中の上段の数値は人数(ｎ)、下段の数値は割合(％)を示す。

５．図表下にカイ２乗検定の値（ｐ値）を記載しているものは、信頼度5%水準で統計上の有意差がみられたもの。原則、自由度は１で検定を行っているが、自由度２での有意差が見られたものについては、ｐ値と合わせて自由度を記載している。

６．複数回答のクロス集計については、カイ２乗検定を行っていない。

７．年齢層別の検証に関しては、「18歳～20歳代」「30歳代」を若年層、「40歳代」「50歳代」を中間層、「60歳以上」を高齢層の３つにセグメント化して比較する。

1. **文化的環境(鑑賞機会や活動・発表の場、文化に関する情報など)の整備状況について**

ここでは、文化的環境の整備状況に関する質問に対して、府域全体と大阪市域に在住する方の関心度を把握する。また、性別、年齢層(若年層：18～30歳代、中間層：40～50歳代、高齢層：60歳以上)によって関心度に違いがあるかを検証する。

１－１　(Ｑ１)この１年間に大阪で芸術鑑賞（伝統芸能、演劇、音楽、映画、絵画やアート作品など）をしたことがある府民の割合

* 全体３８．５％(大阪市域４１．６％)【図表１－１】





(性別、年齢層別)

検証にあたっては、「月に１回以上あった」「２～３ヵ月に１回程度」「年に１、２回程度」を【あった】とする。なお「わからない・覚えていない」は、集計から除いた。

* 女性は、男性に比べて芸術鑑賞（伝統芸能、演劇、音楽、映画、絵画やアート作品など）をしたことがある割合が高かった。
* 高齢層は、中間層に比べて芸術鑑賞をしたことがある割合が高かった。それ以外の年齢層では、統計的な有意差は確認出来なかった。



１－２　(Ｑ２)【Ｑ１で、芸術鑑賞の経験があった方のみ回答（385人）】この１年間に大阪で文化施設(美術館、音楽ホール、映画館など)を利用したことがある府民の割合

* 全体９０．１％(大阪市域８９．９％)【図表１－２】





(性別、年齢層別)

* 性・年齢層別による、統計的な有意差はなかった。



１－３　(Ｑ６)この１年間に大阪で芸術文化活動(伝統芸能、演劇、音楽、映画、絵画やアート作品など)に取り組んだことがある府民の割合

* 全体１５．８％(大阪市域１４．５％)【図表１－３】





(性別、年齢層別)

* 性・年齢層別による、統計的な有意差はなかった。



１－４　(Ｑ４，５) 【２０歳未満の子どもや孫がいる方のみ回答（３２４人）】子どもや孫が、この１年間に大阪で芸術鑑賞や芸術文化活動の取組みをしたことがあるかを質問

（Ｑ４）この１年間に大阪で芸術鑑賞（伝統芸能、演劇、音楽、映画、絵画やアート作品など）をしたことがあった（あったと思う）子どもの割合

* 全体３０．６％(大阪市域２９．３％)【図表１－４－１】





（Ｑ５）この１年間に大阪で芸術文化活動（伝統芸能、演劇、音楽、映画、絵画やアート作品など）に取り組んだことがあった（あったと思う）子どもの割合

* 全体２４．４％(大阪市域１８．３％)【図表１－４－２】





１－５　(Ｑ７)新聞やテレビ、インターネットやSNSなどにより、文化に関する情報ネットワークが充実していると思う府民の割合

* 全体４１．７％(大阪市域３７．１％)【図表１－５】





(性別、年齢層別)

検証にあたっては、「そう思う」「ある程度そう思う」を【そう思う】、「あまりそう思わない」「そう思わない」を【そう思わない】とする。なお「わからない・どちらともいえない」は、集計から除いた。

* 性・年齢層別による、統計的な有意差はなかった。



１－６　(Ｑ８‐１)この１年間に文化を支えるボランティア活動（公演等の準備・運営補助、ガイドボランティア、ＮＰＯ活動など）に参加したことがある府民の割合

* 全体９．１％(大阪市域８．４％)【図表１－６】





(性別、年齢層別)

* 男性は、女性に比べて文化を支えるボランティア活動（公演等の準備・運営補助、ガイドボランティア、ＮＰＯ活動など）に参加したことがある割合が高かった。
* 若年層・高齢層は、中間層に比べて文化を支えるボランティア活動に参加したことがある割合が高かった。



１－７　(Ｑ８‐２) この１年間に文化を支える寄附活動（寄附をする又は寄附を募る）をしたことがある府民の割合

* 全体１６．５％(大阪市域１６．１％)【図表１－７】





(性別、年齢層別)

* 性・年齢層別による、統計的な有意差はなかった。



１－８　(Ｑ１３) 居住地域（市町村）の文化的環境（観賞機会、創作・参加機会、文化施設等）について、満足している府民の割合

* 全体１６．６％(大阪市域１６．８％)【図表１－８】





 (性別、年齢層別)

検証にあたっては、「満足している」「どちらかというと満足している」を【満足している】、「どちらかというと満足していない」「満足していない」を【満足していない】とする。なお「わからない・どちらともいえない」は、集計から除いた。

* 性・年齢層別による、統計的な有意差はなかった。



１－９　(Ｑ１４) 大阪の文化的環境（鑑賞機会や活動・発表の場、文化に関する情報など）が整備されていると思う府民の割合

* 全体２５．１％(大阪市域２４．２％)【図表１－９】





(性別、年齢層別)

* 性・年齢層別による、統計的な有意差はなかった。



1. **芸術文化活動を通じた国内外との交流や、大阪文化の活性化について**

　次に、芸術文化活動を通じた国内外との交流や、大阪文化の活性化に関する質問に対して、府域全体と大阪市域に在住する方の関心度を把握する。また、性別、年齢層によって関心度に違いがあるかを検証する。

２－１　(Ｑ１５) 大阪では、文楽、歌舞伎、演芸等、伝統芸能が保存・継承され、鑑賞の機会が充実していると思う府民の割合

* 全体３３．６％(大阪市域３２．３％)【図表２－１】





(性別、年齢層別)

検証にあたっては、「そう思う」「ある程度そう思う」を【そう思う】、「あまりそう思わない」「そう思わない」を【そう思わない】とする。なお「わからない・どちらともいえない」は、集計から除いた。

* 性・年齢層別による、統計的な有意差はなかった。



２－２　(Ｑ１６) 大阪は海外や他県等と芸術文化の交流が活発であると思う府民の割合

* 全体２２．９％(大阪市域２０．３％)【図表２－２】





(性別、年齢層別)

* 性・年齢層別による、統計的な有意差はなかった。



２－３　(Ｑ１７) 大阪では、芸術文化が都市の魅力づくりに貢献していると思う府民の割合

* 全体２６．４％(大阪市域２２．６％)【図表２－３】





(性別、年齢層別)

* 性・年齢層別による、統計的な有意差はなかった。



２－４　(Ｑ１８) 大阪には国内外からアーティストや作品が集まってきていると思う府民の割合

* 全体２５．１％(大阪市域２４．８％)【図表２－４】





(性別、年齢層別)

* 性別による、統計的な有意差はなかった。
* 若年層は、中間層・高齢層に比べ大阪には国内外からアーティストや作品が集まってきていると思う割合が高かった。



２－５　(Ｑ１９) 新聞やテレビ、インターネットやSNSなどを通じて、文楽、歌舞伎、演芸等、伝統芸能をはじめ、多様な大阪文化の情報が、国内外に発信されていると思う府民の割合

* 全体２４．４％(大阪市域２２．６％)【図表２－５】





(性別、年齢層別)

* 性別による、統計的な有意差はなかった。
* 若年層は、中間層・高齢層に比べて新聞やテレビ、インターネットやSNSなどを通じて、文楽、歌舞伎、演芸等、伝統芸能をはじめ、多様な大阪文化の情報が、国内外に発信されていると思う府民の割合が高かった。



２－６　(Ｑ２０) 大阪に府内外から人々が集まり、芸術文化活動が活発になってきていると思う府民の割合

* 全体２３．３％(大阪市域２２．６％)【図表２－６】





(性別、年齢層別)

* 性別による、統計的な有意差はなかった。
* 若年層は、中間層・高齢層に比べて大阪に府内外から人々が集まり、芸術文化活動が活発になってきていると思う割合が高かった。



1. **あらゆる人々が創造性を発揮し、チャレンジすることができる魅力的な都市(文化自由都市)について**

最後に、あらゆる人々が創造性を発揮し、チャレンジすることができる魅力的な都市(文化自由都市)に関する質問に対して、府域全体と大阪市域に在住する方の関心度を把握する。また、性別、年齢層によって関心度に違いがあるかを検証する。

３－１　(Ｑ２１) 劇場やホール、さらには公共空間等、大阪の様々な場所において、あらゆる人々が創作活動に参加でき、鑑賞体験が出来る（文化を享受できる）都市であると思う府民の割合

* 全体３０．１％(大阪市域２７．７％)【図表３－１】





(性別、年齢層別)

検証にあたっては、「そう思う」「ある程度そう思う」を【そう思う】、「あまりそう思わない」「そう思わない」を【そう思わない】とする。なお「わからない・どちらともいえない」は、集計から除いた。

* 性別による、統計的な有意差はなかった。
* 若年層は、中間層に比べてあらゆる人々が創作活動に参加でき、鑑賞体験が出来る（文化を享受できる）都市であると思う割合が高かった。それ以外の年齢層では、統計的な有意差は確認出来なかった。



３－２　(Ｑ２２) 大阪は上方伝統芸能をはじめとする大阪文化が、大阪の魅力向上に活用されていると思う府民の割合

* 全体３６．７％(大阪市域３４．５％)【図表３－２】





(性別、年齢層別)

* 女性は、男性に比べて大阪は上方伝統芸能をはじめとする大阪文化が、大阪の魅力向上に活用されていると思う割合が高かった。
* 年齢層別による、統計上の有意差はなかった。



３－３　(Ｑ２３) 大阪は、文化を通じて、子ども、高齢者、障がい者、外国人等に社会参加の機会が開かれているまちだと思う府民の割合

* 全体２１．１％(大阪市域１９．７％)【図表３－３】





(性別、年齢層別)

* 性別による、統計的な有意差はなかった。
* 若年層は、中間層・高齢層に比べて大阪は、文化を通じて、子ども、高齢者、障がい者、外国人等に社会参加の機会が開かれているまちだと思う割合が高かった。



３－４　(Ｑ２４) 大阪において人や地域が抱える課題（公共空間の利活用、地域活性化、街づくりなど）の改善や解決に、文化が活用されていると思う府民の割合

* 全体２１．２％(大阪市域２０．０％)【図表３－４】





(性別、年齢層別)

* 性別による、統計的な有意差はなかった。
* 若年層は、中間層・高齢層に比べて大阪において人や地域が抱える課題（公共空間の利活用、地域活性化、街づくりなど）の改善や解決に、文化が活用されていると思う割合が高かった。



３－５　(Ｑ２５)大阪が創造性を発揮し、チャレンジすることができる魅力的な都市（文化自由都市）になっていると思う府民の割合

* 全体２４．８％(大阪市域２４．５％)【図表３－５】





(性別、年齢層別)

* 性別による、統計的な有意差はなかった。
* 若年層は、高齢層に比べて大阪が創造性を発揮し、チャレンジすることができる魅力的な都市（文化自由都市）になっていると思う割合が高かった。それ以外の年齢層では、統計的な有意差は確認出来なかった。

